みらい すくすく 通信
505号
この通信に掲載の野菜のお届け日
2021年 6月28日 ～ 7月 2日
いつも有機野菜をお買い上げありがとうございます。
毎週、旬の情報をお伝えします。
2021年６月13日発行
有機農協のお届け便 ゆうきの実

北海道有機農協の農家の１年と畑の今をお伝えしていきます

～有機農家の365日～ 安平・またたびFarm

１：キュウリの接ぎ木。隣には害虫予防としてコンパニオンプランツのネギが　２：俣野さんと成育中のトマト。脇芽をすべて取り集中させる１本仕立てという手法　３：キュウリは強い３本を残して上から吊る吊り上げ栽培　４：ハウス側部の自動巻き上げ器　５：霜が降りると枯れるため各ハウスは暖房で温度管理されています

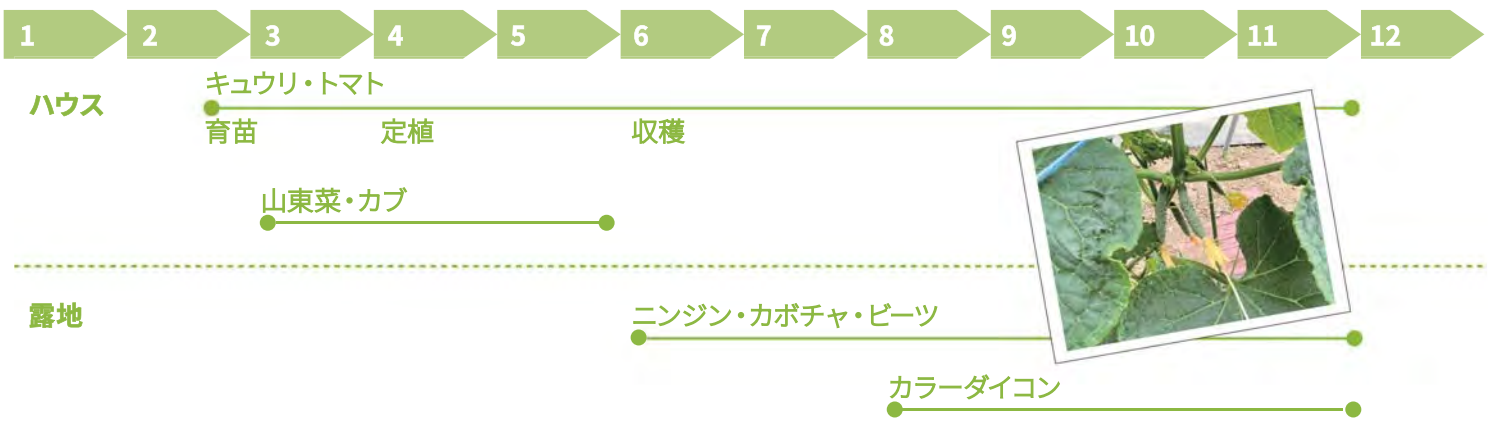
今年もキュウリが楽しみ！

またたび Farm は就農 20 年以上、俣野利一郎さん、葉子さんがご夫婦で営む農家。葉子さんは北海道有機農協の理事を務め、利一郎さんは、安平の新規就農者との会話では必ずと言っていいほど出てくる良き兄貴的な朗らかな存在です。今年もすでに山東菜と春のカブが出荷されており、舌が覚えているという方も多いのではないでしょうか。

またたび Farm といえば春のこれらに加え、夏のキュウリ、トマトの印象もあるのではと思います。昨年の当記事では、キュウリは接ぎ木に挑戦し（病気等に強い成育を目的として、同じウリ科のカボチャの根にキュウリの茎を結合）、味も収量も納得いく結果になったことをお伝えしました。今年はキュウリの接ぎ木を継続し、さらには、トマトも接ぎ木栽培にチャレンジ！有機で接ぎ木をしている先人があまりいなく情報のない中での挑戦とのことですが、どちらも順調な成育をみせており、収穫が楽しみとのことでした。

小さな努力をコツコツと

一方で、昨年のカラーダイコン（紅芯ダイコンや緑芯ダイコン）は納得のいく出来ではなかったそう。原因は元肥（追肥（途中で入れる肥料）に対して最初に入れる肥料）が少なかったからとふんでおり、今年は大丈夫と意気込んでいます。また、畑に目をやるとハウスの自動巻き上げ器を新規導入していました。ハウス内の温度計でハウス側部の幕が自動に開閉され、これにより手間も減り、野菜の質向上にも期待がもてるとのことです。

次にここから出荷される野菜は既に小さな実をつけたキュウリでしょうか。ひとえに接ぎ木栽培といっても小さな二つの苗を結合し定植させるという、細やかで手間のかかる作業。農家の思いと背景を合わせて味わっていただけたらと思います。

またたび Farm の 365 日